

文化・芸術

「版画集『悪の華』No.6 わが夜な夜なの
暗やみの背景に神は巧みなる指先もて
途切れることなきさまざまな悪夢を描く」

1890年、エッチング、紙
9・7センチ×8・3センチ

オディロン・ルドン

(1840～1916年)

宙に浮かぶ巨大な目玉、人間の顔を持つ植物など、夢の世界や心の奥底にある神秘的なイメージを奇怪で幻想的な作風によって表現したオディロン・ルドン。19世紀末、フランスの象徴主義を代表する画家の一人です。

本作は、シャルル・ボードレールの詩集「悪の華」のために描いた素描を特殊な製版法で銅版に転写したもので、ルドン唯一の銅版画集のうちの一点。夜の闇と悪夢に対する恐怖と羨望（せんぼう）をうたった詩に添えられた挿絵です。

ルドンは版画によるモノクロームの作品を「私の黒（ノワール）」と呼び、その黒の世界の中で自身の空想や独自の造形を自由に表現しました。ルドンが思い描いた悪夢のイメージなのか、あるいはある夜に実際に見た夢なのか、私たちの感覚を揺さぶるような不安定な空間とその闇の中でうごめき、増殖していくような不可思議な人面の生きものが、黒の濃淡によって幻想的に描き出されています。

(佐藤)

《名画の扉》

大川美術館コレクション展から

